送電停止でも安定給水

東京・東村山浄水場

出力5000kW 大型の発電設備導入

大型の非常用発電設備を導入する東村山浄水場

東京都は東村山浄水場（東京都東村山市）に大型の非常用発電設備を導入する。地震などが発生して同浄水場への送電が停止した場合に備えて給水体制を強化するのが狙い。出力5000キロワットで、これまで各浄水・給水場に設置している非常用発電設備と比べて倍近くの発電能力を持つ。2013年度末に設置が完了する予定。首都直下型地震など巨大地震が今後起こる可能性が高く、ライフラインである水災害時も安定供給することを目指す。

東京都は東村山浄水場が23区と多摩地域に給水する大規模な浄水場で、非常用発電設備を設置する敷地も確保できることから導入を決めた。すでに設置工事を始めており、導入費用は約12億円。出力5000キロワットで災害時の給水に対応する。

都は浄水・給水場に非常用発電設備を導入しており、最大出力は2500キロワットったという。地震などが発生して停電しても短時間で復旧することを前提に設置してきたが、東日本大震災を踏まえ、より長時間の停電に備える必要があると判断した。東村山浄水場に新たな非常用発電設備を導入して、停電した際でも安定した給水体制を確保する。

東村山浄水場の処理能力は、一日当たり126万5000立方メートル。朝霞浄水場、金町浄水場に次ぐ処理能力を持ち、常用発電設備も稼働している。

都は震災を踏まえて、水道局内に大規模災害対策検討委員会を11年6月に設置、水道施設の耐震化や応急給水施設の整備などを盛り込んだ「大規模災害対策指針」を策定した。模災害対策指針」を策定した。

揺れ動くLED照明

アカリネが試作品開発

【水戸】モノづくり企業の潜在能力を発掘して応援したい。アカリネ（千葉市中央区、森宮祐次社長、050・3414・0595）は、照明の影に注目した照明機器「アカリネ005・インタラクティブ・ライト」の試作品を完成した。異形の穴が開いた1ミリメートル厚のステンレス板を十字に組み合わせ、床で転がしても重心が常に一定の「等高重心立体」の考え方を組み込んだ。

縦、横とも24センチメートル、奥行き28センチメートルで重さ約800グラムの試作品を転がすと、振り子のように揺れ動き、設置した二つの発光ダイオード（LED）も点灯する。静止すると消灯する。今後は重心バランスをずらして継続的に揺れ動くように改良し、7月をめどに製品化したい考えだ。

同試作品はレーザーカット技術と薄板精密加工技術を最大日本ゲージ（茨城県茨城町）の山野内十一郎社長との出会いが開発のきっかけ。2011年に茨城県デザインセンター（同ひたちなか市）が開催した「いばらきデザイン・ラボ」で、森宮社長が講師の講座を山野内社長が受講。強みの加工技術を最大限に引き出せる方法を模索していた。

秦野会議所

中小の後継者育成

11月まで勉強会6回

【横浜】神奈川県の秦野商工会議所は23日、日刊工業新聞社との共催で秦野市内の中小製造業の後継者を対象にした経営勉強会を始める。同会議

横顔

山形県商工労 就任した 深

4月1日付で就任した。この7月で山形に赴任して1年になる。グローバルが進展する中、県内の景況は厳しい状況が続いている。「県内企業の販売面など経営力の向上を重点的に支えていく」と意気込む。

山形県は2011年10月、中国ハルビン事務所を設置した。「食品加工品などの輸出促進につなげたい」と、県内企業の海外展開支援にも目を向ける。

自動車産業関連の集積が東北に一段と進みつつある。技術マッチングに向けた商談会の開催などにより「橋渡し役を担っていきたい」とし、地元企業を後押しする構えだ。

山形県が掲げる付加価値額の向上を目指す。

4月1日付で就任。企業立地、経済政策、観光と商工畑で幅広い経験を持つ。行政改革監時代は県組織のスリム化に取り組んだ。

千葉県商工労 就任した

雇用は大手企業が撤退した茂原地域の緊援。

日刊工業新聞　2012年 5月23日 掲載記事より